

3月・4月の管理ポイント

昨年の夏の気温が高かった影響で、今年は花粉の量が多いようです。
花粉症の人にはつらい時期ですが、バントグラスは生育期を迎えます。
土壌環境を整えて、コンディションの良いグリーンを作っていきましょう。



新発売

高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や浅い層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少水量散布でも高い効果が得られます。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でも使用できる利便性の高い土壌用界面活性剤です。

土壌水分を低めに保ちたい場合はレボ、スポット処理には手撒きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上

ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上

サッチの除去
土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5ℓ/m²

病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業後の保護殺菌にお勧めです。

使用量：バントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

光合成だけでは足りない
養分の補給に

グリーンメカ

生育期を迎え芝生の活動が活発になると、大量のエネルギーが必要になります。しかし気温が低いと光合成スピードが遅く、必要量のエネルギーを作り出すことが出来ません。

貯蔵養分を使い込む前に、糖・アミノ酸・ミネラルたっぷりのグリーンメカで足りないエネルギーを補給しましょう。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²

池の水をきれいなブルーに

ワラーブルール

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルールに含まれる2種類の色素で水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。

安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量： 500ml/ 水500トン

池の水質改善に

セラクリーン

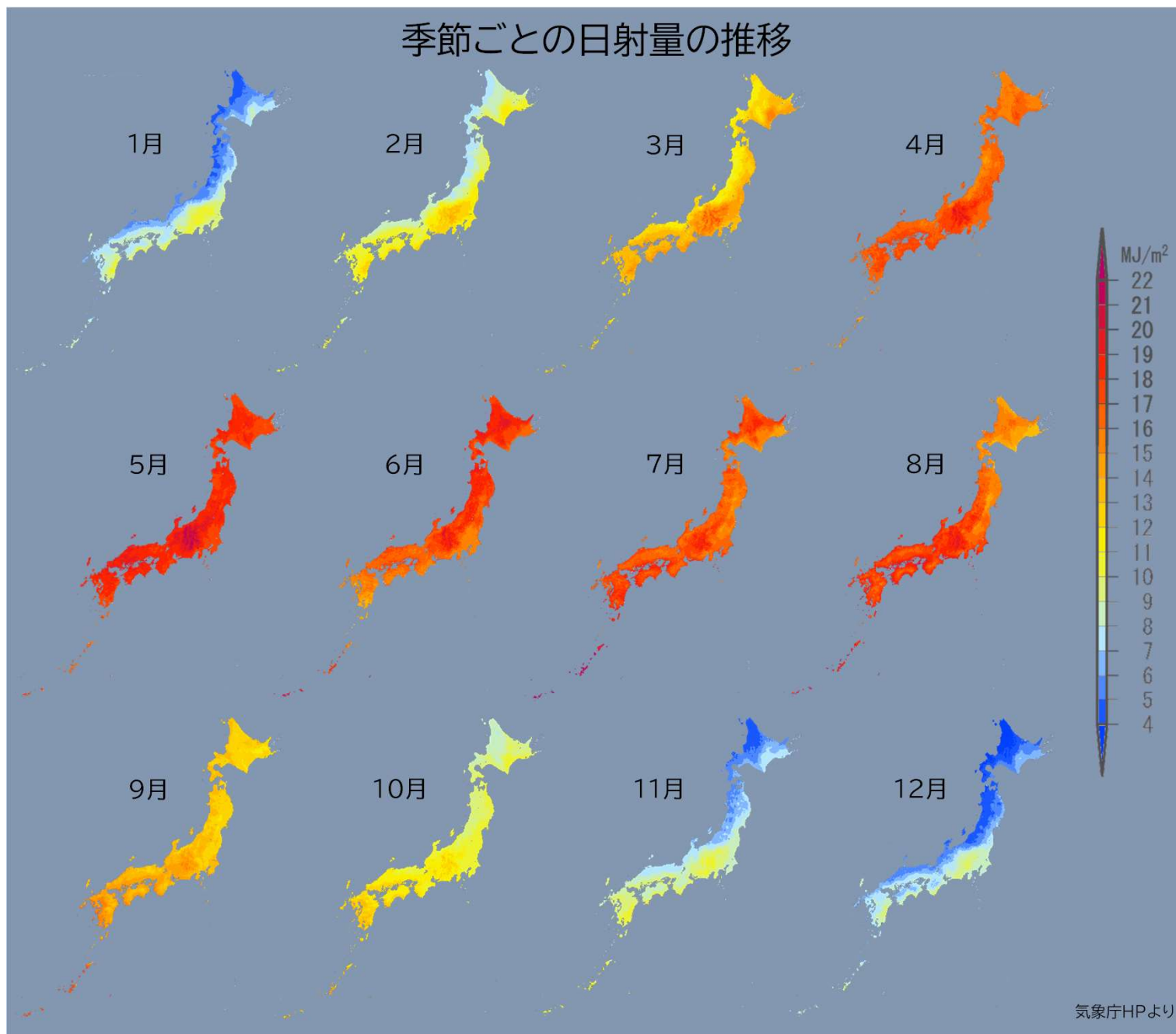
セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆとりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。

即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。微生物やアオコなどが活発化する前から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

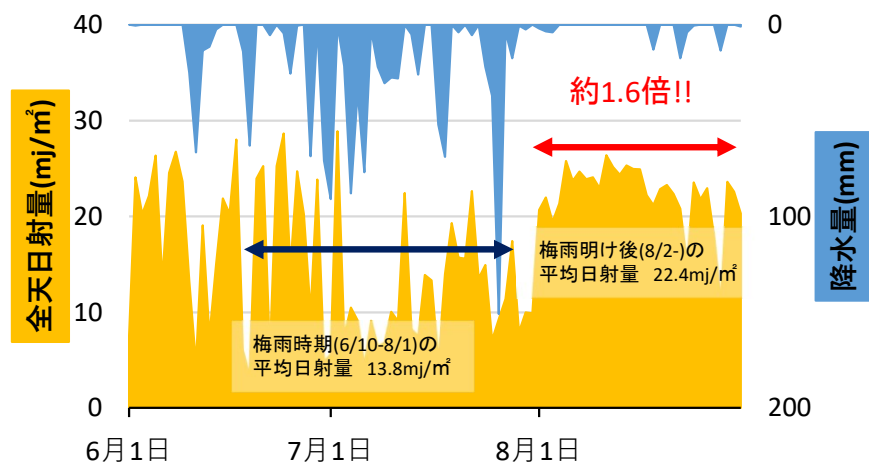
使用量： 5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/ 水1,000トン

春になると気温が上がり、芝生の生育期に入ります。日も長くなってきました。今回は芝生の生育にも関係が深い、季節ごとの日射量について紹介します。

季節ごとの日射量の推移



2020年 静岡市



データ: 気象庁HPより

↑1年間の日射量の推移を見ると、2月頃には日射量が増え始めることがわかります。5月にピークを迎え、10月頃まで日射量が多い時期が続きます。

←長梅雨の後、急激に気温が上がった2020年の静岡市の気象データです。梅雨明け後、日射量が急激に増加し梅雨時期の約1.6倍に増えていました。

芝生には日々様々な環境ストレス(水・温度・強光ストレスなど)が掛かっています。特に環境の急激な変化には弱く、大きなダメージを受けてしまいます。ストレスが掛かりやすい時期やタイミングを把握し、芝生が生育しやすい環境を整えていきましょう。